



米子市埋蔵文化財センターたより

第25号

2017年6月



みやのだん 日南町新屋宮ノ段遺跡の発掘調査始まる！

— 縄文土器や鉄滓、燻し瓦や炉壁が散布 —



新屋宮ノ段遺跡の丘陵遠望



発掘調査の安全祈願祭

昨年度に調査を実施した新屋小タイ田遺跡・川添遺跡に引き続き、平成 29 年度は5月から国道 183 号線鍵掛峠道路の建設工事に伴う日南町新屋宮ノ段遺跡の発掘調査に着手しました。

この遺跡は、新屋集落の日野川と野組川の合流地点の東側に位置する標高 480mの丘陵に位置しています。日南町教育委員会が実施した試掘調査では、縄文時代の土器が出土していることから縄文時代の集落があった可能性があります。また鉄滓がたくさん落ちており、製鉄を行うタタラもあったと推測しています。また、調査地内には焼け歪んだ燻し瓦や炉壁の破片が散乱していることから、明治時代頃には燻し瓦を造る瓦窯があったと考えられます。

この場所には、大正 4 年まで青瀧（あおたき）神社という神社が所在しており、日南町史には青瀧長者と大蛇の伝説も記されています。また、郷土の考古学者、倉光清六氏によって昭和 8 年に「考古学 第四巻」に紹介された多里銅鐸出土伝承地にも近接した場所です。新屋宮ノ段遺跡がどんな遺跡なのか、これからの調査に期待がかかります。

また、発掘調査に先立ち、日南町宮内の樂樂福（ささふく）神社の木山宮司に、現地で青瀧神社跡地を清めていただき、発掘調査の安全祈願のご祈祷を行いました。今年度の発掘調査は、調査対象地の北側半分を 11 月下旬の雪の季節までに完了させる予定です。（佐伯）

発掘調査情報

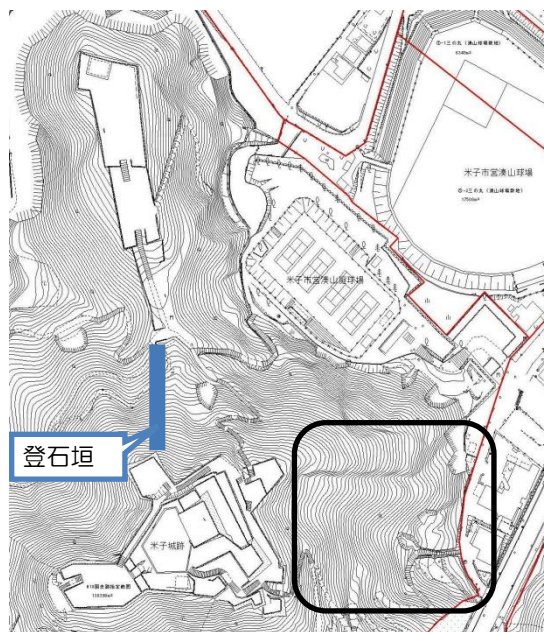
—米子城の謎の解明にむけて その7—

米子市教育委員会が行っております「史跡米子城跡保存整備事業」に伴う発掘調査は、平成29年度は本丸北東側の遺構の確認作業を中心に進めています。

現在は、米子城本丸に登る場合、テニスコート側からや湊山公園駐車場側からの園路が一般的なルートになっていますが、江戸時代の絵図によれば、二の丸枡形の脇から埋門を抜け、本丸に登るルートが「表坂」と記されており本丸に登るメインルートでした。また、この道は南東麓の御船手郭にあった深浦御門から本丸へのルートでした。

残念ながら、現在は国道9号線の開削や、介護福祉施設などの建設により、往時の姿は失われておりますが、平成27年度の踏査及び詳細測量の結果、樹木の中にはまだ、様々な遺構が包蔵されていることが推察できました。

さて、どんな遺構が発見されるのでしょうか。調査に期待は高まります。(文化課 濱野)



囲枠内・発掘調査対象地

整理室たより

別所1・2号墳の再整理

—須恵器・埴輪の再整理—

整理室では、1981(昭和56)年に調査された別所1、2号墳の再整理を行っています。

全長27mの前方後円墳の別所1号墳は古墳時代後期の長者原台地の首長墓と考えられ、調査で大量の須恵器・埴輪などが出土しました。

特にくびれ部の墳丘下で検出された土坑からは約200点の須恵器が、また周溝内からは大量の須恵器や埴輪が出土しました。未整理の遺物は須恵器の横瓶や甕、円筒埴輪や形象埴輪で、当時の報告書では主な遺物しか報告されていなかったために、再整理を行って再整理報告書を刊行する予定にしています。(小原)



別所1号墳の再整理作業

富繁渡り上り遺跡は、米子市淀江町富繁字渡り上りの水田下に所在する遺跡で、1995年に送電線鉄塔建設に伴い淀江町教育委員会によって発掘調査されました。

遺跡は中西尾集落がある丘陵の先端裾にあり、遺跡の北東には鮒ケロ（ふながくち）遺跡や井手跨（いでまたぎ）遺跡が所在しています。

富繁渡り上り遺跡は縄文時代早期末から前期前葉にかけての遺跡で、縄文土器、石器、木製品など多くの遺物が出土しました。中でも土器は前期初頭の西川津式を主体とし、石器は大量の石錘、黒曜石の剥片と石鏃、削器など、木器はヤス、弓などが出土し注目されました。

本遺跡は、六千年前の縄文海進時の旧淀江湖岸の遺跡であり、漁労を主体として暮らした人たちの村跡であったと考えられています。（小原）



上 西川津式土器 下 弓の出土状況

コラム

戦国時代を掘る②

—尾高城跡山下郭— さんげくるわ

尾高城跡は、米子市尾高に所在する中世の城跡です。戦国時代には、毛利氏と尼子氏の攻略の伯耆の拠点として重要な城でした。

史料による尾高城の始まりは、室町時代末に山名氏の一族の行松氏の居城として造られ、戦国時代に毛利氏の家臣の杉原盛重が城主となり本格的に整備されたと考えられます。

城は主要な八つの郭を連ねた連郭式の城で、西側の丘陵下には、主郭を守るように山下の郭が配置されていました。山下の中央には大手と思われる出入口通路が発見され、両側には通路を守るように土塁が築かれて、土塁の基礎には数段の石が積まれていました。山下には下級武士が配置されて、城の大手を守っていたと考えられます。（小原）



山下の通路の土塁

センター・資料館日誌

- 4月15日(土) 江津市の伊藤氏が米子城の瓦の調査で来館された。
- 4月21日(金) 埋蔵文化財センター展示室の一部展示替えを行った。
- 4月24日(月) 永江公民館青雲大学がセンターの視察研修で来館された。



- 4月30日(日) 米子つつじまつりが開催され、資料館の研修室をゲスト控室に提供した。埋文センターの駐車場やトイレを開放し提供した。

史跡福市・青木遺跡のガイドウォークを開催した。

- 5月1日(月) 江津市の伊藤氏が米子城の瓦調査で再来館された。
- 5月2日(火) 尚徳小学校の児童がラリー遠足で来館された。
- 5月8日(月) 東京芸大の松田氏他が上淀廃寺跡の壁画調査で来館された。
- 5月10日(水) 広島大学院生の真木氏が日南町三吉密ヶ塚遺跡の土器調査で来館された。
- 平木副館長が鳥取県ミュージアムネットワークの総会で倉吉へ出張した。
- 5月23日(火) 五千石公民館婦人部が五千石の歴史学習とセンターの視察研修で来館された。

- 6月13日(火) 尚徳小学校3年生が古代学習で来館した。



- 6月16日(金) 国学院大生の鈴野氏が子持勾玉の調査で来館された。
- 6月19日(月) 木更津市の宮代氏が資料調査で来館された。
- 6月20日(火) 米子松蔭高校生徒がインターンシップで22日まで来館した。
- 6月22日(木) 尚徳小学校3年生が古代体験学習で来館した。
- 6月28日(水) 米子南高校生徒がインターンシップで30日まで来館した。

編集後記

梅雨に入りましたが、あまり雨も降らず空梅雨となりそうで、花壇への水かけを欠かせない日々です。職員は、昨年につき日南町新屋の遺跡調査に朝早くから出掛けており、夏バテが心配されるころですが、元気で夏を乗り切ってほしいと願っています。

発行日 平成29年6月30日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp